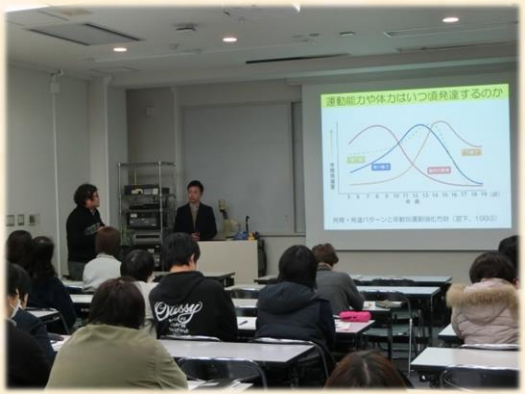

2019年1月5日（土）鳥取大学教員養成センター
発達保障についての講演会
『乳幼児期の運動発達と発達障害児の運動特徴』

「乳幼児期の運動発達と発達障害児の運動特徴」
参加者感想（抜粋）

・能動的経験を遊びの中に沢山とり入れながら環境を整え身体認知を育てたいと感じました。（保育士）

・とてもわかりやすく、様々な体の動きを“何故これはこうなるか”というところを学ぶことができました。今、目の前の子どもの苦手としているところを「何故できないのだろう？」「どうしたらできるようになるかな？」と、どちらかというと直接的な方法ばかり考えがちだったところ、今日の学びで苦手な部分は、どんなプロセスからこうなってしまうのだろうか？自分の根本的な視点を見直したり、考え直したりすることができました。
今日はお話を伺えなかったのですが、『パーソナルスペース』についての話もとても興味がわきました。（保育士）

・とても興味深い内容で楽しく聞かせていただきました。“科学的根拠に基づいた子育て”　目指したいですが、日常生活の中で、なんとなく感じていたことが“そういうことか！！”と納得できることが、今日の話の中で幾つかありました。（保育士）

・ASD の子どもへの運動発達の支援の仕方を見せていただき、眼球運動などのための遊び等への取り入れ方等、考えるヒントになりました。最近接領域について意識しやすい遊び方の 3 つのポイントを教えていただくことができました。子どもの潜在的な発達レベルを見極めれるようになりながら最近接領域を意識した保育をしていきたいと思います。（保育士）

・保育園での気になる子のことを思い浮かべながら聞かせていただきました。個人的に難しい言葉もあり、自分の知識不足も感じましたが、園はなにより“楽しい”を大事にしたいと思いました。（保育士）

・支援について「手が届きそうなところまで支援するということを意識して行う」と Baby View’s の考えは学びになりました。（保育専門員）

・学校の現場にいると、教科書の内容を分かりやすく、どれだけ多く教えられるかに目が行きがちです。今回のお話で感覚の入力がどうなっているのか、アセスメントやアプローチの仕方のヒントをいただきました。また、子どものニーズとして、勉強と同じくらい（それ以上に）運動ができることが大事という現状があるので、運動面の支援についてとても参考になりました。縄跳びが 1 回しかできなかった子が、できるようになって「もっとやりたい」と自分で練習をはじめました。支援は、リズム・タイミングの言葉でした。（特別支援学級担任）

・自分の子どもとの関わりを振り返ってみると、「身体」という視点や科学的根拠に基づいたものが余りなかったように思います。自分が普段大切にしている心理的な視点と同じように、身体や運動発達も子どもを見るための重要な視点だと改めて痛感しました。（特別支援学校教員）

・自分で動いて感じる経験がこれほど大切だとは思っていませんでした。心的回転、視点取得のトレーニングがおもしろかったです。こんなやり方があるのか！と…。ASD DCD の小 3 男児の事例がわかりやすく、とても参考になりました。（教員）

・発達をきちんとおさえそれを支える環境づくりや支援が大切なことだと感じました。子どもを部分的にとられるのではなく包括的にまた、Baby Views の視点をもち続けたいと思います。（教員）

・身体メタ認知の考え方、大変参考になりました。（臨床発達心理士）

・講義の先生、企画してくださった皆様ありがとうございました。視覚や正常発達についてもう一度学んでみようと思いました。臨床に生かせるようがんばります。（OT）

・発達障害児の運動特性について動画がとても理解しやすかったです。講義もとてもわかりやすい言葉だったのでわかりやすかったです。発達障害児の学童期、成人期の社会参加についての続編があったら嬉しいです。（PT）

・感覚を中心として子どもの運動発達について勉強することが出来、とても勉強になりました。発達支援を考える中で赤ちゃんや子どもの視点に立って 1 つ 1 つのアクションにどんな意味があるのか、より添うことが大切なのかなと思いました。（PT）

・とても興味深く勉強になった講演でした。普段の臨床で行っている事の再確認と、新たな気付きを得る事ができました。（PT）

・運動の学習について知識を深めることができ、アプローチの幅が広がった感じがします。自分が行っていたことに対する根拠も考えが広がりました。テーマを見たときに興味が湧くテーマでした。（PT）